

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 多文化共生社会をめざす会

「参加型学習を取り入れた日本語コミュニケーション活動」

1. 事業の趣旨・目的

本事業の前身となった対話型日本語教室は、外国人だけでなく一般の日本人も参加する多文化共生社会をめざした画期的な教室であった。しかし、外国人の参加者不足からその有効性・必要性を十分に訴えることは難しかった。そこで、本事業ではファシリテーションを軸として活動の流れを再構築し、参加型学習の要素を取り入れることで学習者による主体的な対話交流活動を引き出すこととした。そのために、教室には一般の日本人住民ではなく日本語教育や学習者の母語を学んだスタッフが対話補助者として参加し、学習者が自分のことを話し、みんなの話に耳を傾け、自分たちの考えを短い言葉や文でまとめる活動をサポートした。これらの改善により、交流と日本語の習得を促す。本事業はこうした活動の成果を一般の日本人も参加するこれからの地域の日本語教室へ還元させ、対話型日本語教育の普及に貢献することを目的とする。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月29日	浜松市立 東部公民館	山田国明 横内美保子 松岡真理恵 北村祐人	事業内容の説明	・キーワードカードの手法説明 ・初期の対話型日本語教室の反省点 ・事業申請までの経緯 ・参考になった講座 ・事業内容の説明
10月21日	アイミテ ィ浜松	山田国明 横内美保子 松岡真理恵 小林芽里	中間報告、 事業再開計画	(委員が対話型活動を体験) ・実施した回の内容紹介 ・学習者の出席状況 ・主婦向け事業の様子 ・事業中断と今後のスケジュール ・対話型活動の実践の広がり

				・キーワードカードの学会発表 ・事業再開の問題点
3月9日	浜松市立 南部公民館	山田国明 横内美保子 松岡真理恵 小林芽里 北村祐人	総括、評価、課題	・開催場所、曜日の変更 ・参加人数 ・各回のテーマと担当ファシリテーター ・手法や運営上の工夫、改善点 ・見学の受け入れ ・ブログ ・キーワードカードの宣伝 ・学習者アンケート ・スタッフアンケート ・課題

<委員からの総評>

- ・毎回の準備が丁寧で振り返りも充実していた。
- ・コンセプトを理解したスタッフが手法を工夫することで対話は成立する。以前は困難が多かったが対話型という方向性は間違っていなかった。
- ・今後一般の市民を交えて広げていくことが可能かどうかが課題。
- ・テーマが豊富で、仕掛け作りも参考になった。キーワードカードは参考になる。
- ・こういった活動を地域で実施するためにはボランティア希望者に活動を経験してもらい、やり方や流れを共有できる仕掛けがあるといいのでは。
- ・日本語の上達が客観的に観察できればより理解が深まる。
- ・手法はこの一年でとても進化した。丁寧に振り返って次の仕掛けに結びつけている。
- ・日本人の巻き込み方は課題だが、関心があって理解のありそうな人に少しずつ入ってもらい、まずはファシリテーターを広げていく仕掛けをつくってはどうか。
- ・学習者も定着し参加者間で信頼関係が生まれていた。そうになると会話の内容も雰囲気も変わってくる。

【写真】



3. 日本語教室の開催について

(1) 講座名

参加型学習を取り入れた日本語コミュニケーション活動

(2) 開催場所

浜松市立東部公民館（5～7月）、浜松市立南部公民館（12～3月）

(3) 学習目標

- ・日本語によるコミュニケーション能力を習得する。
- ・コミュニケーション活動による相互理解。

(4) 使用した教材・リソース

- ・オリジナルワークシート

(5) 受講者の募集方法

- ・浜松国際交流協会掲示板にチラシを掲示
- ・ZAZA CITY 中央館 パレットプラザ掲示板にチラシを掲示
- ・市内日本語教育ボランティア関係者にチラシを郵送、配布を依頼
- ・学習者に口コミを依頼
- ・他団体の教室（本団体のスタッフが所属する教室）でチラシを配布
- ・facebook にて学習者向けに予告を投稿
- ・本団体のホームページにて活動を紹介（日時場所など簡易な情報を4言語で）

(6) 受講者の総数 27人

（出身・国籍別内訳 ブラジル：9人、ペルー：9人、フィリピン：7人、中国：2人）

(7) 開催時間数（回数）

2時間×全30回＝計60時間

(8) 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語（人）	教授者・補助者人数	内容
1	05月29日 10:00-12:00	2時間	2人	ブ:1人、 フィ:1人	教授者 1人 補助者 2人	テーマ【名前】。苗字と名前の区別、自分の名前の由来、ペットの名前、結婚すると苗字が変わるか、誰からどのように呼ばれるか
2	06月05日 10:00-12:00	2時間	3人	ブ:1人、 ペ:1人、 中:1人	教授者 1人 補助者 3人	テーマ【節約】。毎月支払うもの、節約方法、情報共有、話したことを書く作業

3	06月12日 10:00-12:00	2時間	4人	ブ:1人、 ペ:1人、 フィ:1 人、中: 1人	教授者 1人 補助者 2人	テーマ【故郷】。地図で故郷の場所を確認、 故郷のよいところ・よくないところ、情報共 有、話したことを書く作業
4	06月19日 10:00-12:00	2時間	3人	ペ:1人、 フィ:1 人、中: 1人	教授者 1人 補助者 3人	テーマ【色】。各色でイメージするものにつ いて、情報共有、色占い、話したことを書く 作業
5	06月26日 10:00-12:00	2時間	2人	フィ:1 人、中: 1人	教授者 1人 補助者 2人	テーマ【買い物】。地図を見ながらお勧めの 店や、よく行く場所について話、情報共有、 話したことを書く作業
6	07月03日 10:00-12:00	2時間	3人	ペ:1人、 フィ:1 人、中: 1人	教授者 1人 補助者 1人	テーマ【暑いとき】。夏のよいところ・嫌な ところ、暑さ対策、話したことを書く作業
7	07月10日 10:00-12:00	2時間	2人	ペ:1人、 フィ:1 人	教授者 1人 補助者 1人	テーマ【持ち物】。カバンなどの中の持ち物 を出して説明、持ち物の名前を重要な順に並 べ替え参加者で比較
8	07月24日 10:00-12:00	2時間	3人	ペ:1人、 フィ:1 人、中: 1人	教授者 1人 補助者 1人	テーマ【テレビ】。よく見るテレビ番組を曜 日時間の表にまとめる、番組のジャンルを考 えて番組名を分類、各国のテレビ事情につ いて、話したことを書く作業
9	12月09日 13:30-15:30	2時間	12人	ブ:5人、 ペ:5人、 フィ:2 人	教授者 1人 補助者 3人	テーマ【名前】。名前を書いて苗字や名前の 数を比較、自分の名前を漢字で書いてみる、 情報共有、漢字テスト
10	12月13日 13:30-15:30	2時間	9人	ブ:5人、 ペ:4人	教授者 1人 補助者 4人	テーマ【私の今まで】。アイスブレイク:ペ ーパータワー、自分の人生の出来事を1本の 時間軸にキーワードを貼ってエピソードを 話す、情報共有、漢字テスト
11	12月16日 13:30-15:30	2時間	8人	ブ:4人、 ペ:4人	教授者 1人 補助者 3人	テーマ【色】。アイスブレイク:同じ色が好 きなひとを探す、色占い、色ごとにイメージ するものについて話しキーワードを書く、情 報共有、漢字テスト
12	12月20日 13:30-15:30	2時間	7人	ブ:5人、 ペ:2人	教授者 1人 補助者 3人	テーマ【おつきあい】。アイスブレイク:誕 生日を聞き合って日付順に並ぶ、誕生日にも らったもの・あげたもの、3つの話題につ いて4択の評価を考える、情報共有
13	01月06日 13:30-15:30	2時間	5人	ブ:3人、 ペ:2人	教授者 1人	テーマ【今年頑張りたいこと】1~12月まで 並んだ帯に今年のいつ何をしたいかをキー

					補助者 4人	ワードに書いて貼って話す、情報共有、水書道で書き初め
14	01月10日 13:30-15:30	2時間	16人	ブ:6人、 ペ:6人、 フィ:3人、中:1人	教授者 1人 補助者 1人	テーマ【疲れ】。よく疲れる体の部位を確認、どうして痛いか、疲れを癒す方法、情報共有、話した書く作業
15	01月13日 13:30-15:30	2時間	16人	ブ:4人、 ペ:8人、 フィ:3人、中:1人	教授者 1人 補助者 4人	テーマ【持ち物】。様々なカバンの名称をあてる、どこに何を入れているかを図で示す、持ち物の名を分類してグループ間で情報共有、話したことを書く作業
16	01月17日 13:30-15:30	2時間	9人	ブ:3人、 ペ:4人、 フィ:1人、中:1人	教授者 1人 補助者 3人	テーマ【初めて】。アイスブレイク：浜松にはじめて来た年の古い順に並ぶ、6つの話題が書かれたサイコロを使って初めてについて話、情報共有、話したことを書く作業
17	01月20日 13:30-15:30	2時間	8人	ブ:5人、 ペ:3人	教授者 1人 補助者 4人	テーマ【学校】。各国の学校の年数の比較、勉強した科目、好きな科目・嫌いな科目、学校の思い出、情報共有、話したことを書く作業
18	01月24日 13:30-15:30	2時間	9人	ブ:5人、 ペ:4人	教授者 1人 補助者 2人	テーマ【苦手なこと】。アイスブレイク：グループごとに共通で苦手なものを探す、苦手なものをあげる、克服方法を考える、情報共有、話したことを書く作業
19	01月27日 13:30-15:30	2時間	9人	ブ:4人、 ペ:4人、 中:1人	教授者 1人 補助者 4人	テーマ【ストレス】。ストレスのツボ、どのようなときにストレスを感じるか、ストレスの解消方法、情報共有、話したことを書く作業
20	01月31日 13:30-15:30	2時間	8人	ブ:2人、 ペ:3人、 フィ:2人、中:1人	教授者 1人 補助者 3人	テーマ【いちばん】。「いちばん」がつくことの話、地震のときに持って行くいちばん大事なものの、大事な順に並べる、情報共有、話したことを書く作業
21	02月03日 13:30-15:30	2時間	8人	ブ:4人、 ペ:3人、 中:1人	教授者 1人 補助者 3人	テーマ【要らないもの】。要らないもの、要らないものの活用方法、情報共有、話したことを書く作業、いままでのワークシートからよくある間違いの表記と文法の解説
22	02月07日 13:30-15:30	2時間	8人	ブ:4人、 ペ:2人、 フィ:2人	教授者 1人 補助者 2人	テーマ【遊び】。アイスブレイク：お題でお絵描き・評価、子供の頃の遊び、情報共有、話したことを書く作業
23	02月10日	2時	7人	ブ:5人、	教授者	テーマ【家電】。家にある家電製品、名称を

	13:30-15:30	間		ペ:2人	1人 補助者 2人	書いて分類、なくても構わないもの、節電方法、情報共有、話したことを書く作業
24	02月14日 13:30-15:30	2時間	8人	ブ:4人、 ペ:3人、 フィ:1人	教授者 1人 補助者 3人	テーマ【恋】。アイスブレイク:アイドルの人気投票、結婚したい・したくない・友達になりたい・なりたくないの4分類でどんな人か、情報共有、話したことを書く作業
25	02月17日 13:30-15:30	2時間	4人	ブ:3人、 ペ:1人	教授者 1人 補助者 3人	テーマ【寝る】。睡眠時間、寝る時間・起きる時間の比較、眠れないとき・眠いときどうするか、睡眠に関する話、情報共有、話したことを書く作業
26	02月21日 13:30-15:30	2時間	6人	ブ:3人、 ペ:2人、 フィ:1人	教授者 1人 補助者 2人	テーマ【癖】。癖とはなにか、自分や周りの人の癖、良い癖と悪い癖、情報共有、話したことを書く作業、書いたものをその場で補助者が指導
27	02月24日 13:30-15:30	2時間	8人	ブ:5人、 ペ:2人、 中:1人	教授者 1人 補助者 3人	テーマ【浜松】。故郷のよいところを紹介、浜松のよいところ・よくないところ、地図上でお勧めの場所に名称を貼る、情報共有、話したことを書く作業
28	02月28日 13:30-15:30	2時間	9人	ブ:5人、 ペ:4人	教授者 1人 補助者 2人	テーマ【ペット】。ペットの思い出、ペットのいいところ・よくないところ、情報共有、話したことを書く作業
29	03月02日 13:30-15:30	2時間	7人	ブ:5人、 ペ:1人、 中:1人	教授者 1人 補助者 3人	テーマ【家事】。家事の内容をあげる、好きか嫌いかを話し合う、家事の上手な工夫、情報共有、話したことを書く作業
30	03月06日 13:30-15:30	2時間	7人	ブ:4人、 ペ:2人、 中:1人	教授者 1人 補助者 3人	テーマ【ファッション】。アイスブレイク:お題でお絵描き(グループで1枚の絵を描く)、おしゃれな人とは、どんなファッションが好きか、情報共有、話したことを書く作業

（９）特徴的な授業風景

■第 26 回 2012 年 2 月 21 日（金）テーマ「くせ」 授業報告

＜テーマ提示 13:30-13:45＞

「「くせ」って知っていますか。くせってなんでしょう。」と問いかけ、初級の人がかかるかを注視した。母語での理解はできたが、日本語で簡単に言うかどうかは難しかったよう。中上級の人から「分からないときにやっている」、「おなじことをやる」、「くせはわるいもの」という意見があがった。次に、漢字の「癖」を提示し、「やまいだれ」の意味を確認してから、「癖は病気でしょうか。」と投げかけてから自分や家族の癖の例を話した。再度、定義に戻り、最初にあがった言葉を少し直した。「しらないうちにやっている」、「なかなかおらない」。「みなさんにはどんなくせがありますか。それを話しながらカードに書きましょう。」という指示で会話スタート。

＜活動 1 & 共有 13:45-14:25＞

自分や周りの人の癖について話しながら、黄色い付箋にそれを単語で書く活動。補助者はその他のキーワードを拾って緑の付箋に書いた。学習者の話題の出る量が 2 つのグループで大差がついた。話題が出ない場合は補助者が例を挙げて促した。分類は口癖、文字、行動が 2 つのグループで共通していた。先日のテーマ「寝る」が印象に残っていたせいか、寝ているときの癖が分類にあがったグループもあった。

＜活動 2 & 共有 14:25-15:00＞

活動 1 であがった癖について、良い癖、良くない癖を判断してもらった。シールの赤／青で区別して貼ってもらったが、個人の意見で割れて同じ付箋に赤青を貼るのもよしとした。共有ではその点も話してもらった。意外と良いと認める癖も出た。共有では学習者の発話を促し、学習者が実演をするなどした。

＜まとめ 15:00-15:30＞

今回話したことをまとめるシートを個人で書いてもらった。今回は書いた後、補助者にその場で添削と指導をしてもらった。そのため時間を少し長く取った。アドバイスが済んでから回収した。

＜スタッフ振り返り＞

- ・ テーマについて家で考えてきた学習者もいたが、見つからなかったよう。
- ・ 自分以外で家族のことを思い出しながら話せていた。
- ・ テーマ提示で癖の意味、やさしい日本語での確認をしたのはよかった。
- ・ Mさんは他の人が話したあとのリアクションが良い。よくみんな話を聞いている。
- ・ グループで話題がなかなかでないときに過去の実施回の話題例を見せたのはよかった。
- ・ まとめシートをその場で添削するのは言いたかったことを学習者が聞けるのでよかった。
- ・ 注意は促したが、会話中に学習者がノートを取ることに集中してしまうことが多い。

■第23回 2012年2月10日（金）テーマ「家電」 授業報告

＜テーマ提示 13:30-13:40＞

家電という言葉を知っているか確認。初級者は分からなかったので、テレビや冷蔵庫などの写真を黒板に貼った。次に「家電」がなんなのかを中級者に聞き、家のなかで電気を使うものだということを確認した。どこで買うかの例もあげ、有名な店の名前も写真と共に出した。「自分の家にある家電について話しましょう」という指示で対話活動へ。

＜活動1 & 共有 13:40-14:30＞

家電の名前を参加者全員がペンを持ち付箋に書くことにした。家電を書くだけでなく、その家電に関するエピソードも出せばよかったが、これはグループごとに様子が違った。うまく家族の様子が出せたところもあれば、ひたすら家電を思い出して書く作業に没頭しがちのグループもあった。付箋の分類方法は、使う部屋で分けたり誰が使うかで分けたりとグループで違いが見られ興味深かった。

＜活動2 & 共有 14:30-14:45＞

付箋に挙げた家電を見て、なくても大丈夫なものに緑色のシールを貼ってもらった。グループの中で意見も別れ、それがまた対話を生むことができた。共有では時間がなかったので模造紙をグループ間でまわさず、その場で補助者に紹介してもらった。意見が分かれた点もどういう意見が出たのか話してもらった。

＜活動3 & 共有 14:45-15:10＞

付箋に上がった家電の中で、電気を節約できるものはないか、どうやったら節約することができるかその方法を話し合い、青い小さな付箋に簡潔に方法を書いて貼ってもらう活動をした。提示では、学習者にも話を振り、エアコンの節電方法を聞いた。設定温度を低くしたり新しいものに買い替えるなどの意見が出た。それを受けて、白熱電球の写真とLED電球の写真の間に「→」を書き、電気をあまり使わないものに買い替えることを紹介した。グループによっては活動2で「なくてもいいもの」が多くあがったので、あまり節約方法はあがらなかったよう。他のグループは1つの家電に2つ3つと節約方法があがった。共有では、自分たちのグループではあがらなかった節電方法が他のグループであがり、なるほどと参考になったよう。

＜まとめ 15:10-15:30＞

今回話したことを書いてまとめる作業。付箋や自分のノートのメモを見ながら単語を書く様子が見られた。

＜スタッフ振り返り＞

- ・ テーマを初級者が理解しきれていないまま活動に入ってしまった。
- ・ 家電の名称を書く作業はカタカナなどの表記の練習にはなった。
- ・ 個人のエピソードがほとんど出ないグループもあったが、

家庭の様子があったというグループもあった。

- ・話してから書かないと書く内容はかぶってしまうし、書くことに没頭して話さなくなってしまう。
 - ・話し合いの結果を形にまとめやすいテーマと活動だった。
 - ・キーワードとして、あまり関係のないものまで書くのは変な気がした。見極めが難しい。
 - ・なくてもいいものでそれぞれの意見が出て面白かった。
 - ・テーマ提示で自分のエピソードを交えることがなく、後の活動にも影響してしまった。
 - ・進行具合を見て活動を加えたり、共有方法を変えるなどして時間の調節ができた。
 - ・付箋の数が多くなれば話が活発だったかというところでもないことがよく分かった。
- 単に付箋に言葉を書く作業で数が増えるよりも、もっとエピソードを引き出す方に工夫を凝らしたい。

テーマ提示



対話活動



アイスブレイク・アクティビティ



キーワードカードの使用



情報共有



話したことを書く作業



4. 事業に対する評価について

(1) 当初の学習目標の達成状況

教室活動は学習者が主体となって対話をする参加型学習の手法が有効に働き、旧来の学校型の活動と比べて圧倒的に発話の機会が多く、活発なコミュニケーションができた。活動のテーマは生活の工夫や様々なことに対する好み、意見、思い出などを引き出すことができ、国籍を問わず多くの人とお互いの考えや情報を共有し相互理解が深まった。

(2) 学習者の習得状況

学習者アンケートによる良かった点で最も多かったことは、言葉（単語、表現）を覚えたというものだった。これは対話活動中にキーワードとなる言葉を付箋カードに書き記す手法の成果と言える。書いたキーワードを最後に整理して模造紙に並べてまとめることで達成感があり、印象に残った言葉も覚えやすくなった。こうした活動を続けるうちに、最初は字を書くことが苦手だった学習者も積極的に自分で書くようになった。また、自分のことを話し、グループや教室全体で参加者の反応を得ることに喜びを感じ、初級の学習者でも頑張って日本語で伝えようとする努力が見られるようになった。中級以上の学習者は、初級者がわからない言葉を説明する際に母語に頼らず、まずはやさしい日本語に言い換えて伝えようとすることも定着してきた。

(3) 日本語教室設置運営の効果、成果

<学習者にとって>

アイス・ブレイク・アクティビティーの導入や、参加者がお互いのことを知るためのテーマ活動により参加者同士の親睦が深まり、毎回のテーマを楽しみに来る常連の学習者層が生まれた。他の教室と並行して通う学習者も多く、学校型の文法学習とは違う対話型という新しい学習スタイルへの理解が定着した。

<スタッフにとって>

対話型活動の新しい担い手を増やすことができ、経験のあるスタッフも過去に実施したテーマ活動に新しい要素を加えるなどの挑戦ができた。活動後はスタッフ間で内容の振り返りをし、個々の改善や気づいたことを共有することでスタッフ全員が成長できた。

<地域にとって>

対話型の日本語教育はまだまだ実践例が少ないが、充実した内容の活動事例を残すことができた。その活動記録は写真と共にブログで紹介し、ほぼ毎回の内容を投稿した。今後、地域で新しい対話型教室が開設されるときは、この教室の活動事例が参考にされることを期待する。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

市内外の地域で日本語教育を実施している団体、特に本事業と同じく対話型の活動を取り入れている団体やこれから対話型を取り入れようとしている団体の関係者を招き、活動

を体験してもらい、情報交換をすることができた。本事業の成果は地域の教室へ還元し、今後もこういった交流を通して他団体と共に対話型活動を推進していく。

（５）改善点、今後の課題について

①現状

＜初級者対応＞

これまでの対話型活動で最も問題になっていたのが初級者対応である。このために、一般の日本人住民ではなく日本語教師などが対話補助者になり、初級者にも理解しやすい日本語で対応することができた。そして、そのスタッフは学習者のいずれかの母語にある程度対応できる体制を取っていた。また、活動の仕掛けに使う付箋やシールは色の違いなど視覚的な工夫をすることで言葉の理解の助けになるようにした。こうしたことで、初級者も継続して受講することができた。しかし、ゼロ初級のような学習者の対応は対話型の教室だけでは難しい。他の学校型の教室での学習と並行してもらうことが望ましい。

＜活動の流れ＞

対話活動はテーマについて単に２時間話すのではなく、流れに変化をつけ、「共有→拡散→収束→共有」というファシリテーションで用いられるモデルを参考にした。テーマによって異なるが、話題の予備知識となる語彙を出しあって確認し（共有）、グループごとに問いに対する意見交換をし（拡散）、そこで出た話題を整理して（収束）、最後に教室全体で情報を共有する（共有）という流れである。変化をつけたことで、活動中に内容の理解が深まるようになり、有意義な活動になった。

＜成果物＞

対話活動の流れでファシリテーターは参加者にいくつかの問いを出す。それらの活動の結果が重層的に成果物として模造紙にまとめられることで学習者に達成感が生まれた。模造紙にまとめることによりグループ間でそれを回すことも容易にでき、短時間で教室全体で情報を共有することができた。

＜付箋カードの活用＞

大きな付箋カードを使って対話活動中のキーワードを学習者や補助者が記録して整理する手法は、複数のファシリテーターが参加型学習の様々な手法を用いて活用方法が広がった。例として、ブレイン・ストーミング、タイムライン、比較、ランキング、地図作り、フォトランゲージなどの手法により参加者が主体的に活動することができた。このように活動に文字を書くことを取り入れたことで、初めて知った単語も記憶に残りやすくなり、よく話せる学習者にとっても表記の確認になった。

＜振り返りの重視＞

対話補助者は毎回の活動を３つの観点で振り返り、スタッフ間で情報を共有した。学習者の様子、活動について、補助者として自分がどういったことを心がけたかの３つである。

ファシリテーターが書く毎回の報告書でも詳細に内容を振り返り、スタッフ全員がメーリングリストで情報を共有した。こうした取り組みが問題点を明らかにし、各自の改善実践に役立った。

<ブログによる情報公開>

対話型活動の普及をめざし、ほぼ毎回の活動内容をブログに投稿し、豊富な写真を交えて工夫した点や気づいた点などを紹介した。(http://tabunkadonguri.sitemix.jp/)

②今後の課題

<書いたものの指導>

学習効果を高めるために活動の最後にその回で話したことを書いてまとめる活動を取り入れた。時間の都合もあり、書き終えたものを回収してコーディネーターが赤ペン添削をしてから後日学習者に返却していた。しかし、これでは理解できたかを確認することはできないので、内容を更に簡潔にして直接指導する時間を設けられないか検討が必要である。

<スタッフ数>

グループ活動において学習者が4人以上になると補助者1人では話題をコントロールすることはできても個々の学習者の日本語を観察することや自分がどのような話し方の工夫をしたかを記録することが難しくなってくる。ビデオに撮ることも可能だが、検証に時間がかかるので、対話補助者の他に参加者の日本語を観察する役割をもったスタッフを置く必要がある。しかし、ファシリテーターもそうだがスタッフの数が足りていない。

<一般の日本人の参加>

他の地域の教室でも実践可能な事例を残すことはできたが、地域に暮らす一般の日本人住民が外国人住民との対話に関わっていく理想の活動は簡単ではない。ボランティア向けの開講前の説明会や、やさしい日本語の講習などのステップを用意する必要がある。

③今後の活動予定、展望

本団体が最も力を入れてきた対話型の活動で新たな手法を計画中。また、中上級者がやさしい日本語を身につけることでもたらされる効果を教室活動の中で検証していく。

(6) その他参考資料

<学習者アンケート>

Q 1. よかったテーマはなんですか (第9～28回目まで。一人3つまで回答)。

要らないもの：4名、持ち物：3名、恋：3名、ペット：3名、遊び：2名、家電：2名、初めて：2名、疲れ：2名、苦手なもの：1名、ストレス：1名、寝る：1名、学校：1名、浜松：1名、いちばん：1名、今年頑張りたいこと：1名

テーマ提示や活動の仕掛けが印象に残るものが多かったよう。複数のファシリテーターが担当することでバラエティーに富んだテーマ活動を提供できた。

Q 2. どんなことが勉強になりましたか。

新しい言葉：6人、全部：3人、いろいろな人に出会ったこと：2人、役に立つこと：3人、知らなかった面白いこと：1人、日本の知識：1人、話すこと：1人

言葉を覚えたという人が最も多い。実際に学習者の話題から出てきたものや言いたいことだと思われるものをキーワードとして付箋に書き留めたので、知らなかった人にとってすぐに役立つものが多かったと思われる。いろいろな人に会い意見を聞くことも勉強になったというのはこの活動の特徴が表れている。教師からではなく、お互いから学びあうことができた。

Q 3. よかったことはなんですか。

ゲーム（アイスブレイク）／先生方／みんなと一緒にしゃべった／いろいろなテーマがあった／日本語で質問したり答えたりした／友達が増えた／人のふれあい／他の国の文化がわかった／先生が分かりやすく教えてくれた／自分の意見を出したり結果を出したりした

総じて交流の面で評価が高かった。楽しく、居心地のよいことが出席率につながっている。楽しい仲間と言いたいことを話しお互いを知る場は国籍を問わずあるべき。

Q 4. 困ったこと・よくなかったことはなんですか。

ない（同様6件）／言葉がよく分からないとき話せません／早く話すのは分からない／授業の時間が短い（3時間がいい）／たまに言葉が思い出せないとき／漢字の読み書きが困る（書いてまとめる作業のとき）／を、に、は、へなどの使い方をよく間違えた

活動内容に対する評価と自分の苦手なことが混在してしまった。初級の人にはやはり聞いて理解すること、中級以上の人には話せるけれども読み書きは難しく、なんとなく話せてはいても助詞などが身についておらず勉強が必要と思っている人もいる。

Q 5. これから勉強したいことはなんですか。

漢字：7人、会話：4人、文法：4人、日本語能力試験：3人、仕事のこと：1人、学校のこと：1人

いちばんに困っている問題としてはやはり漢字が読み書きできないので勉強したいという声が多かった。毎回の授業で話したことをまとめるシートの裏面には書き取り帳のマスがあり学習者は覚えた単語をひらがなで書いたが、時間内での漢字指導には繋がられなかった。会話は継続して学びたいという一方で、就職のために文法や日本語能力試験の勉強もしたいという声が多かった。

Q 6. クラスのレベルは分けた方がいいですか。

・分けた方がよい：4人

→理由：難しい言葉は分からないので。ときどき何を言っているか分からないから。分か
っていない人がかわいそうだから。同じレベルなら早く上手になるかもしれないから。

・分けない方がよい：7人

→理由：分かる人（学習者）が教えてくれるから。みんな一緒がいい。会話なら問題はな
いを書くときは分けた方がよい（同様2件）。

教室活動はファシリテーターの指示で平均して3つのグループに学習者を分けていたが、
基本的には日本語のレベルごとには分けて、学習者が助け合いながらお互いのことを知り、
対話の内容が膨らむことを優先した。アンケート結果では、分けない方がよいとする意見
が多かったが、初級者には難しいから分けた方がよいという意見があった。今後、活動内
容によってレベルを分けるという意見も試してみる必要がある。

Q7. 日本語で話すよう気をつけましたか（A～FでAがよく気をつけた、Fが忘れた）

よく気をつけた← A：4人、B：2人、C：5人、D：0人、E：0人 →忘れた

活動の初期は、ごく簡単なことでも同じ母語話者同士ですぐに母語で話してしまう傾向
が見られた。そこで、母語禁止にはしないものの、簡単な日本語で工夫して言えば通じる
こと、それが話す方にとっても、聞く方にとっても勉強になることを説明し、なるべく日
本語で話すことを呼びかけた。その結果、そのように努力する様子が活動中に見られた。
日本人だけでなく、中級以上の学習者もやさしい日本語に気を配れるようになれば、初級
者が日本語に触れる機会が増え、中級者にとっても基本的な文型や文法の見直しができる
ので、今後も進めていきたい。

Q8. 同じ国の人がなるべく日本語で話すのはいかがでしょうか。

いい← A：8人、B：1人、C：2人、D：0人、E：0人 →いやだ

→理由：【A】だんだん上手になるので（同様3件）。日本語を習いたいから。日本語の勉
強になると思う。【B】たまに分からない言葉を助けてくれるから。【C】もっと日本語の
勉強になるから。

学習者同士で日本語を話す努力をすることが、会話の練習になっているという実感に繋
がっているのだと思われる。

Q9. 言いたいことが日本語で言えましたか。

言えた← A：2人、B：3人、C：2人、D：4人、E：0人 →言えなかった

初級者はDが多かったが、そういう人でも情報共有の際に日本語で言う努力はできてい
た。話した内容にみんなが喜んでくれるなどの反応があることが、頑張っ日本語で話し
てみようと言う努力に繋がっている。

Q10. スタッフの日本語は分かりやすかったですか。

分かりやすい← A : 7人、B : 2人、C : 0人、D : 2人、E : 0人 →分かりにくい

日本語教育を学んだスタッフがやさしい日本語に気を配って対話に加わっていたので、一般の日本人が関わる対話教室でのやり取りとは格段の違いがあった。若干、初級者には難しいこともあったようだが、全般的にはスタッフの日本語が理解の助けになり、ストレスなく対話内容に集中できた。

Q11. 教室以外の日本人の日本語は分かりやすいですか。

分かりやすい← A : 1人、B : 1人、C : 2人、D : 4人、E : 3人 →分かりにくい

初級者はやはり一般の日本人の日本語が分かりにくいと思っている。中級以上の学習者にはこの教室のスタッフの日本語と一般の日本人の違いに気づいてもらい、やさし日本語の工夫がいかに理解を促すことができるかを感じて、実践してもらいたい。

Q12. 生活の中で同じ国の人と日本語で話すことはありますか。

よくある← A : 1人、B : 1人、C : 2人、D : 4人、E : 3人 →ない

日本語環境で育った日系人を除いては、同じ国の人と日本語で話すことはやはりほとんどないことがわかった。しかし、「大丈夫」や「休み」などの単語レベルでは日本語の方が短くて言いやすいという理由から頻繁に会話の中に日本語が混在するようである。

Q13. 生活の中で日本人と話すことはありますか。

よくある← A : 5人、B : 1人、C : 5人、D : 0人、E : 0人 →ない

誰と話すか…家族 : 4人、友達 : 6人、近所の人 : 8人、日本語の先生 : 10人、職場 : 1人、その他 : 3人（子供の担任の先生、銀行・病院、スーパー等）

日本語のレベルを問わず比較的日本人と話す機会はあるよう。子を持つ親の場合は、近所とのつきあいも多い。日本語教師との会話は教室の内外も含めて日本語を話す機会として多くの学習者があげている。

Q13. 仕事をしたいですか。

はい : 10名、今はまだいい : 1名

第9回目以降は平日午後に教室を開催したため来ていた学習者は就職を希望している人がほとんどだった。今後も同じ平日午後に開催できるかは様子を見て検討する必要がある。

Q14 : 仕事をする場合、勉強に都合のいい曜日と時間帯はいつですか。

平日午後 : 3名、土曜午前 : 1名、土曜午後 : 3名、日曜午前 : 2名

平日でもフルタイムの仕事ではないので午後ならば可能という人や、土日は家族との時間や教会などの時間と重なるなどの理由で分かれてしまった。

「社会参加をめざす外国人主婦層のための日本語教室」

1. 事業の趣旨・目的

浜松市では日本語を学ぶ学習者の構成はひと昔前以上に多様化が進んでいる。昨今、徐々に増えてきているのは定住化した主婦層である。そのような学習者のなかには、母語と日本語口頭表現能力を活かして外国籍の子供たちの学習支援に携わる人も多い。また、接客業に従事している人もいて、年齢が高くなるにつれて転職を考える人も増えている。

滞在年数の長い主婦層は特に口頭での日本語コミュニケーション能力を生活の中で身につけている。しかし、来日してからの仕事や生活が過酷で、日本語教室へ通う余裕はなかったという人も多く、その日本語は化石化も目立つ。また、非漢字圏出身者は漢字が障壁となり、読み書きの能力は極端に低い傾向がある。日本語能力を証明するために日本語能力試験を受験しても、思うような結果を出せない。介護などへの転職も期待できる選択肢だが、その資格取得までは読み書きの能力は欠かせない。外国籍児童の学習支援に携わっていても、読み書きの指導に自信がない人は多い。本事業は、主に転職・再就職を希望している女性が、日本語を学ぶことで自己実現に結びつけることを目的とする。また、国籍を越えて主婦同士の親睦を深める場作りをめざす。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月13日	浜松市立南部公民館	横内美保子 三輪千明 内山夕希 小林芽里 山田国明	・事業計画	・委員の紹介 ・事業申請までの経緯、去年度のフィリピン人支援事業の説明 ・市内の外国人登録者数の状況 ・事業内容の説明 ・広報の状況 ・今後の希望
7月22日	浜松市立南部公民館	横内美保子 三輪千明 内山夕希 山田国明	・事業進捗状況	・学習者の様子 ・日本語能力試験への対応 ・パソコン講習の様子 ・対話型活動の導入効果 ・広報の状況 ・事業期間外の教室：漢字教室 ・来年度の事業申請について ・社会参加をどの視点に絞るか
3月9日	浜松市立南部公民館	横内美保子 内山夕希 小林芽里	・事業総括 ・日本語能力試験の結果	・参加人数の集計 ・対話型活動の導入効果 ・パソコン講習の反省

		山田国明 他、委員外 で2名	・ アンケート結果 ・ 成果と課題	・ 日本語能力試験の受験結果 ・ 学習者アンケート ・ スタッフアンケート ・ 成果 ・ 課題
--	--	----------------------	----------------------	---

＜総評＞

- ・ 社会参加と言いつても、その内容はさまざまで、そのために本事業が何をどうやってサポートするのも定めにくい。
- ・ 日本語能力検定試験は、あくまで途中目標であって最終目標ではない。この事業で絶対に取り組まなければいけないことでもなかったのでは。
- ・ より社会的なアプローチをめざすのなら、学習支援に関わっている人たちや関心をもっている人たちを対象をしぼり、必要な情報や知識を提供し、意識を高め、技術を身につけてもらう、というような方向性もあるのでは。
- ・ この団体ならではの特色は何かという点をもっと打ち出した方がよいのでは。特色としては、1) 対話型、2) 多文化共生の視点、3) 社会的課題をテーマにしているところかと思う。3) では新聞のリライトもいいアイデアだと思った。
- ・ 期間を通じて、学習者のニーズに合わせて柔軟な対応をしているのが良いと思った。
- ・ JLPT 対策の教室は、(単に学習者確保というだけでなく) 目的意識を持って勉強することの意味とか効果的なものを理解してもらえたのではないかな。
- ・ 何のためにするか、誰のためにするかというのを学習者自身にも意識してもらい、それを応援するための日本語教室というのが必要なのだと改めて思った。

【写真】



3. 日本語教室の開催について

(1) 講座名

「社会参加をめざす外国人主婦層のための日本語教室」

(2) 開催場所

浜松市立南部公民館（日本語授業）、アイミティ浜松（パソコン講習）

(3) 学習目標

- ・ 日本語の読み書きに慣れる。
- ・ 漢字の苦手意識を克服する。
- ・ ボランティア活動や仕事などで活かせる簡単なパソコンスキルを身につける。
- ・ 日本語能力試験に合格する。

(4) 使用した教材・リソース

- ・ オリジナル漢字テスト
- ・ 新聞記事のリライト文章とオリジナル問題
 - YOMIURI ONLINE／ヨミドクター／「わたしの医見」より介護・医療関連
 - asashi.com より社会問題
- ・ 「パターン別徹底ドリル 日本語能力試験 N4」、同 N3、同 N2
- ・ 「Build Up Your KANJI SENSE 漢字のコツがわかる本」
- ・ 「新にほんご “生活の漢字” 漢字みつけた」
- ・ 「U-CAN の日本語能力試験 N 3 予想問題集」、同 N 2
- ・ 「新試験対応 日本語能力試験 N4 予想問題集」、同 N 3、N 2
- ・ 「日本語能力試験 模試と対策 N 3」、同 N 2
- ・ 「中級日本語文法要点整理 ポイント 20」
- ・ 「短期集中初級日本語文法総まとめ ポイント 20」
- ・ 「日本語でできる！外国人のためのパソコンのきほん」
- ・ 「新完全マスター読解 日本語能力試験 N 2」

(5) 受講者の募集方法

- ・ 外国人が経営するレストランにチラシを掲示
- ・ 浜松国際交流協会掲示板にチラシを掲示
- ・ ZAZA CITY 中央館 パレットプラザ掲示板にチラシを掲示
- ・ 市内日本語教育ボランティア関係者にチラシを郵送、配布を依頼
- ・ 学習者に口コミを依頼
- ・ 他団体の教室（本団体のスタッフが所属する教室）でチラシを配布
- ・ facebook にて予告を投稿
- ・ 本団体のホームページにて活動を紹介（日時場所など簡易な情報を 4 言語で）

(6) 受講者の総数 36人

(出身・国籍別内訳 フィリピン：21人、ブラジル：6人、ペルー：6人、中国：3人)

(7) 開催時間数(回数)

1.5時間×全40回＝計60時間

(8) 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	受講者数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
1	05月13日 14:00-15:30	1.5時間	8人	フィ:8人	教授者 2人 補助者 1人	レベルチェックテスト、対話活動:「学習目標を話し合う」、アンケート
2	05月17日 14:00-15:30	1.5時間	6人	フィ:6人	教授者 2人 補助者 1人	新聞記事読解:「夫の血糖値は食事作りの励み」、漢字テスト、対話活動:学校の思い出
3	05月20日 14:00-15:30	1.5時間	11人	フィ:11人	教授者 2人	①文法:動詞活用、形容詞 ②文法:微妙なニュアンスを加える助詞「だけ/ばかり/さえ/しか」など 共通:対話活動「テレビ」
4	05月24日 14:00-15:30	1.5時間	8人	フィ:8人	教授者 2人 補助者 1人	①漢字、文法:助詞 ②漢字、新聞記事読解:「子育て主婦の6割が再就職を断念」、文法
5	05月27日 14:00-15:30	1.5時間	7人	フィ:7人	教授者 1人 補助者 2人	日本語入力の方法、ひらがな、カタカナ、漢字
6	05月31日 14:00-15:30	1.5時間	7人	フィ:7人	教授者 1人 補助者 2人	①文法:助詞 ②文法:前回続き、微妙なニュアンスを加える助詞 共通:読解「雨の日の洗濯」
7	06月03日 14:00-15:30	1.5時間	4人	フィ:4人	教授者 1人 補助者 2人	パソコン講習:ウェブの検索方法(画像、動画、地図)、日本語学習に役立つサイト紹介、レジャースポットのサイトから情報の読み取り練習
8	06月07日 14:00-15:30	1.5時間	7人	フィ:7人	教授者 2人 補助者 1人	①文法:助詞「が」「は」、漢字 ②文法:「～において」「～に際して」「～を通じて」など
9	06月10日 14:00-15:30	1.5時間	3人	フィ:3人	教授者 1人	パソコン講習:メールの書き方、実践課題:「友人をパーティーへ招待する」「日本語教

					補助者 2人	室の欠席を先生に知らせる」、辞書検索の方法
10	06月14日 14:00-15:30	1.5時間	10人	フィ:10人	教授者 2人	①文法:「です」「じゃないです」「でした」「じゃなかったです」 ②N3対策問題:文法総合 共通:読解「深蒸し茶について」
11	06月17日 14:00-15:30	1.5時間	10人	フィ:10人	教授者 2人 補助者 2人	能力試験聴解問題練習
12	06月21日 14:00-15:30	1.5時間	12人	フィ:12人	教授者 2人 補助者 1人	①文法:形容詞+名詞 ②N3対策問題:文法、総合問題
13	06月24日 14:00-15:30	1.5時間	7人	フィ:7人	教授者 2人 補助者 1人	能力試験聴解問題練習
14	06月28日 14:00-15:30	1.5時間	7人	フィ:7人	教授者 2人	①文法:テ形 ②能力試験対策問題:並べ替え問題
15	07月01日 14:00-15:30	1.5時間	12人	フィ:12人	教授者 2人 補助者 1人	N2、N3、N4 模擬試験
16	07月08日 14:00-15:30	1.5時間	6人	フィ:6人	教授者 2人	①N4 模擬試験の振り返りと解説 ②文法:「の/こと」名詞化 共通:能力試験を受けるにあたってのアドバイス
17	09月09日 14:00-15:30	1.5時間	8人	フィ:5人、ブ:1人、ペ:2人	教授者 2人 補助者 1人	共通:オリエンテーション レベルチェックテスト、対話活動:「日本語を勉強する目的」
18	09月13日 14:00-15:30	1.5時間	12人	フィ:7人、ブ:2人、ペ:2人、中:1人	教授者 3人	①新聞記事『精神疾患による教員の退職』読解とそれについての対話 ②①と同じ記事の読解、漢字確認と対話
19	09月16日 14:00-15:30	1.5時間	8人	フィ:5人、ペ:3人、	教授者 3人	①N4対策問題:漢字、名詞、読解 ②文法:「が・は」時制、漢字、語句
20	09月20日 14:00-15:30	1.5時間	13人	フィ:3人、ブ:4人、ペ:4人、中:2人	教授者 3人	①N4対策問題:漢字、動詞、読解 ②N2対策問題:漢字、語彙確認、対話「お互いのこと」

21	09月27日 14:00-15:30	1.5時間	15人	フィ:7人、ブ:3人、ペ:3人、中:2人	教授者 3人	①N4対策問題:文法(形容詞)、漢字 ②N2対策問題:文の文法 共通:対話活動「自己紹介」、願書の書き方
22	09月30日 14:00-15:30	1.5時間	8人	フィ:3人、ブ:2人、ペ:3人	教授者 3人	パソコン講習:文字入力、ウェブ検索:日本語能力試験HP、小学生向け漢字ドリル
23	10月04日 14:00-15:30	1.5時間	15人	フィ:6人、ブ:3人、ペ:3人、中:3人	教授者 3人	①-A N3対策:漢字、文法 対話活動「自己紹介」 ①-B N4対策:漢字、形容詞 対話活動「ふるさと」 ②N2対策:文法、漢字、熟語
24	10月11日 14:00-15:30	1.5時間	15人	フィ:4人、ブ:4人、ペ:4人、中:3人	教授者 3人	①-A N3対策問題 ①-B N4対策問題 ②漢字テスト、N2対策問題:並べ替え 共通:対話活動「家事と勉強の両立」
25	10月14日 14:00-15:30	1.5時間	17人	フィ:5人、ブ:4人、ペ:5人、中:3人	教授者 3人	①-A N3対策問題:文脈、副詞、文法 ①-B N4対策問題:漢字、形容詞 ②漢字テスト、N2対策問題:並べ替え、語彙
26	10月18日 14:00-15:30	1.5時間	16人	フィ:5人、ブ:5人、ペ:4人、中:2人	教授者 3人 補助者 1人	①-A N3対策問題:並べ替え、漢字 ①-B N4対策問題:助詞、接続詞 ②漢字テスト、読解・中学教科書『字のないはがき』(向田邦子)
27	10月21日 14:00-15:30	1.5時間	13人	フィ:4人、ブ:4人、ペ:3人、中:2人	教授者 3人	①-A N3対策問題:類似語、オノマトペ ①-B N4対策問題:動詞、接続詞 ②N2対策問題:漢字、文の文法 共通:対話活動「寒いとき」
28	10月25日 14:00-15:30	1.5時間	11人	フィ:2人、ブ:5人、ペ:2人、中:2人	教授者 3人	①-A N3対策問題:動詞、漢字、読解 ①-B N4対策問題:副詞、並べ替え ②漢字復習テスト N2対策問題:動詞、名詞、形容詞、副詞
29	10月28日 14:00-15:30	1.5時間	14人	フィ:5人、ブ:4人、ペ:3人、中:2人	教授者 3人	①-A N3対策問題:漢字、並べ替え、読解 ①-B N4対策問題:読解 ②漢字復習テスト N2対策問題:並べ替え、読解

				人		
30	11 月 01 日 14:00-15:30	1.5 時間	15 人	フィ : 7 人、ブ : 5 人、ペ : 3 人	教授者 3 人	N2、N3、N4 模擬試験
31	11 月 04 日 14:00-15:30	1.5 時間	4 人	フィ : 0 人、ブ : 3 人、ペ : 1 人	教授者 1 人 補助者 3 人	パソコン講習 : 文字入力復習、手書き入力 の方法、カナルハママツ紹介、類語辞典の 使い方
32	11 月 08 日 14:00-15:30	1.5 時間	12 人	フィ : 5 人、ブ : 4 人、ペ : 3 人	教授者 3 人 補助者 1 人	①模試の振り返り・解説 ②模試の解説、 対話活動 : 「体調管理」
33	11 月 11 日 14:00-15:30	1.5 時間	13 人	フィ : 6 人、ブ : 5 人、ペ : 2 人	教授者 3 人	①N3 聴解練習問題練習 ②N2 聴解練習問題 練習
34	11 月 15 日 14:00-15:30	1.5 時間	10 人	フィ : 2 人、ブ : 5 人、ペ : 3 人	教授者 3 人	①-A 模試の振り返り・解説 ①-B N4 対策 問題 : 動詞、形容詞、読解 ②N2 対策問題 : 語彙、表現、読解
35	11 月 18 日 14:00-15:30	1.5 時間	10 人	フィ : 5 人、ブ : 4 人、ペ : 1 人	教授者 2 人	①N3 聴解練習問題練習 ②N2 聴解練習問 題練習
36	11 月 22 日 14:00-15:30	1.5 時間	15 人	フィ : 7 人、ブ : 5 人、ペ : 3 人	教授者 3 人	①-A N3 対策問題 : 文の文法 ①-B N4 対策 問題 : 正しい文、語彙、読解 ②N2 対策問 題 : 語彙 共通 : 対話活動「買い物」
37	11 月 25 日 14:00-15:30	1.5 時間	7 人	フィ : 2 人、ブ : 3 人、ペ : 2 人	教授者 2 人	①N3・N4 対策問題 : 情報検索 ②N3 対策 問題 : 情報検索、会話読解、対話活動 : 自 由なテーマで
38	11 月 29 日 14:00-15:30	1.5 時間	11 人	フィ : 5 人、ブ : 3 人、ペ : 3 人	教授者 2 人	①N3 対策問題 : 文の文法、試験問題回答の コツ ②N2 対策問題 : 情報検索 共通 : 12/6 料理のアクティビティ計画
39	12 月 02 日 14:00-15:30	1.5 時間	9 人	フィ : 3 人、ブ : 3 人、ペ : 3 人	教授者 2 人 補助者 1 人	①N3、N4 読解問題総合練習 ②N2 対策問 題 : 語彙 共通 : 次週アクティビティ、材 料や持ちものの確認など
40	12 月 06 日 14:00-15:30	1.5 時間	13 人	フィ : 6 人、ブ : 4	教授者 1 人	お好み焼き、焼きそばを作りながら、材料 名の確認、各国の料理についての説明 (料

				人、ペ：3 人	補助者 2人	理名や材料名を付箋に書く)
--	--	--	--	------------	-----------	---------------

(9) 特徴的な授業風景

■第27回 2011年5月24日(火) 授業報告

<クラス1 14:10-14:30>

復習プリント：書き順が危ういものもあるが、字のカタチのとり方、四角の中のどの位置に書けばバランスがよく、その文字らしいのかをいまひとつつかんでいない気がする。十字線の入ったノートのページを渡して、最初に本人に書いてもらい、問題がある場合のみ書いてみせて練習してもらおう。似ている字、同じ部首がある字などに意識がいくように注意し「グループ化」をすすめてして定着するように努める。

<クラス2 14:10-14:30>

文字：先週、ある学習者が「心」という漢字の長いストロークをずいぶん角張って書いていたので、教科書体と明朝体の違いを代表例をあげて紹介した。書くための書体と、印刷物などで使われる読むための書体があることは知らなかったようで、みな感心した様子だった。「火」や「北」などの簡単そうな漢字でも明朝体の書き方で覚えていたようなので、学習支援に関わる人は特にやってよかったと思う。「心」の書き方はバランスが難しいので水書道を使って練習した。

<クラス1 14:30-15:30>

問題：問題文を交代で読んでもらい、() 内に入る助詞を考えてもらう。最初は本当にあてずっぽうで言っているのがよくわかる。ありがちな誤答も多い。あえてふりがなをふらなかった漢字のうち読めなかったのは「母」「金」「家」など。読みと意味を伝えてから書き順を示す。学習者の「覚えたい」「書きたい」という気持ちがとてもよく伝わってくる。1課のポイント1とポイント2について説明を加えつつ「どんなときにどの助詞を使うのか」についてルールがあることに気づいてもらうよう例文をいくつか出しながらももちろん英語もまじえながら進める。「フィリピンにいます」「フィリピンではたらいしています」はなぜ「に」と「で」に分かれるのか気づいてくれた。説明のあと問題を解いてもらったがひっかめの問題以外は難なく答えられた。

<クラス2 14:30-15:00>

漢字&読解：前回よりも難易度を下げた読解とそこで使われる漢字の小テストを実施した。文章は朝日新聞「子育て主婦の6割が再就職を断念」

(<http://www.asahi.com/edu/kosodate/news/SEB201105170008.html>) をリライトしたもの。かなりレベルを下げたつもりだが、検定対策用の文法項目はリライトせずそのまま残した。意識したり、世間一般でよく言われることに書き換えた部分もあり、理解を促すためにいままでよりもオリジナルからの改変を多くした。漢字は、今回も学習支援組とそうでな

いひとたちでかなりの開きが出た。2～3割か、5～6割といったところ。接頭語などは使い回しが利くので大事にしてもらいたい。「～と～の両立」は本文では育児と仕事の両立ということだったが、他の例をいくつかあげて、仕事と家庭、遊びと勉強などで、納得した様子だった。

<クラス2 15:00-15:30>

文法：第1課の残りがあつたので、進むことにした。「～だの～だの」「～やら～やら」などの微妙なニュアンスを含む表現をやった。しかし、問題集の例文が適切でないものや、生活でもあまり使わない表現は説明しても反応が悪い。

<スタッフ振り返り>

▼クラス1は、学習意欲に火がついた瞬間を目撃した気がしてとてもうれしい。解答の際、あてはまるものに○をつけるというやり方がFさんにはなじんでいない。試験の形式や選択肢をよりわかる際のテクニックについても少しずつ伝えていきたい。「書きたい」「読みたい」漢字についてひとつずつでも覚えてもらえるよう注意を払いたい。

▼クラス2は、生徒に合わせた例文を予め用意しておくなどの対策が必要。準備が甘かったと反省。試験対策に比重を置くのは後半のタームで、いまは生活で耳にする表現より少しだけ背伸びしたものを選んで、良問とそうでないものを予め見極めて飛ばすなどしてもよさそう。

■第27回 2011年10月21日（金） 授業報告

<クラス1A 14:00-15:00>

宿題確認N3の言い換え類義のプリント問題。プリント1枚ずつ各自で解答、全員が解答できてから答え合わせ。選択肢の中で意味がわからないもの・あいまいなものを確認。間違えやすい語彙も確認する。選択肢の語彙を使って、T-S共に例文、熟語を作成。類似語、類似表現、疑問質問など対応。全体的に正答率が高かったが、時々書き言葉になるとわからないことも多かった。（例：述べる⇔言う）わからない時にどうするかを話しあう。他の選択肢を考えて消去法で答えを探すことを確認。答えの中に「キラキラ」という言葉が出てきて様々なオノマトペを話しあう（ガラガラ、ザーザー、シトシト、パラパラ等）。

<クラス1B 14:00-15:00>

N4練習問題／文の接続。命令形はどんな時使うのか、家族の中、親子で？職場で？政治の場で？話し合あったが、女性はどの場面においても使わないほうがいいのではないかという意見。可能形や受け身の使い方は例を出しながら確認。動詞のグループ分けは知らない人もいたが、一回の説明ですぐ理解できていた。各問題の語法を使い、例文を作成。

動詞の言い換え類義語。練習問題を約10分、各自解答してから全体で答え合わせ。見直す、不足する 述べる、洗濯物を干す、の意味確認と例文作りを行う。その他、対義語、類似語を出しながら、答え合わせ。洗濯物を洗うところからしまうところまでをチェーン

で一人一文ずつ出していった。「洗濯物がたまる→洗う→干す→乾かす→取り入れる→たたむ→しまう」。知っている動詞と知らない動詞がそれぞれ違うので、うまく補い合えてよかった。

<クラス2 14:00-15:00>

N2漢字表記の練習問題。「洗濯」は「さんずい」に着目して読みを選んだTさんは、学んだコツが生かせてとても喜んでいて。「乾燥」は「乾く」と「干す」の違いを説明。音読みではどちらも「かん」なので間違えやすかった。「貝」がお金を表すことは何度か指導済みなのでみな覚えていた。「血液型」という語句からは、少し脱線しておしゃべりに。

最も苦手な文法の並べ替え問題。繋がりを考えて前から、後ろから、セットになっているものを考えた。聞き慣れない表現が多いので苦戦したよう。

<クラス合同 対話型活動／テーマ「寒いとき」 15:00-15:30>

テーマ提示では、寒いときにどのようなことをしているか、「対策」という言葉は使わずに実物の例を出して自分のやっていることを紹介した。服の内側にカイロを貼る、手ががさがさするのでハンドクリームを塗る、部屋はエアコンで暖かくしているなど。教室全体に、「みなさんは寒いときはどんなことをしていますか」という問いかけでグループごとに対話活動に入った。

各講師は対話補助者として各グループに参加し、対話中に出た言葉を参加者が各自で付箋に書いた。対話活動のあと、付箋を何らかのカテゴリーでグループ分けして、模造紙に貼ってもらった。最後にグループごとにまとめた模造紙を教室全体で回して、他のグループのキーワードを閲覧した。

全体での共有では、震災後の電力事情のことを考えて、暖房にも節電を考えましょうという発表があったり、首を暖めるスヌード、フリースなどの説明があった。コンパクトに各グループで出た話題を共有することができた。

<スタッフ振り返り>

▼クラス1Aは、答え合わせを通して様々なコミュニケーションを取ることができた。主婦の視点で「洗濯物」「干物」から会話を広げていた。個性を出しコミュニケーションを広げられた。南米出身者は話し言葉の習得はとても良く、話していることもわかりやすい。その反面書き言葉や漢字はまだ苦手としている人も多かったので漢字対策の意味は大きいと思う。まだ冬の日本の色々なモノを知らなかった学習者もいたので、このテーマは良い機会だったと思う。発表では積極的に発話し、生き活きとしていた。

▼クラス1Bのテーブルでは、母国と日本の気候の比較や、温暖化についての意見、日本の生活で困ることなどが話題になった。今日は書くことがなかったので、思いついたことをどんどん話し、テンポが速かった。共有の時間には、中国とフィリピンの方が発表し、楽しく活動出来た。

▼クラス2のテーブルでは、あまり深い内容では話していなかったものの他のテーブル

の内容に感心していたので、考えの共有という点で有意義だったと思う。対話活動は 120 分でじっくりやる方法と、30分だけで効率よくやる方法をうまく使い分けていきたい。

対話型活動



新聞読解



日本語学習（文法・漢字）



水書道



パソコン講習



日本語能力試験対策／模擬試験



4. 事業に対する評価について

(1) 当初の学習目標の達成状況

来日してからの滞在年数が長い人でも日本語教室で学んだことがないという人は多かった。しかし、そうした人達も日本語学習を通して自分の日本語を見つめ直し、勉強の面白さにも気づくことができた。自己実現のための日本語学習の目標の一つとして試験合格を設定したことで、モチベーションが非常に高まった。7月と12月の2回の試験で合計6名の合格者を出すことができた。レベルごとの合格者は次の通り。

【N1】…1名	【N2】…2名	【N3】…2名	【N4】…1名
---------	---------	---------	---------

主婦層に対象者を絞った効果は特にリライト教材を読んだあとのディスカッションや対話型活動で発揮できた。活発なコミュニケーションでお互いのことを知ることができた。

(2) 学習者の習得状況

話せる割には漢字が苦手な学習者が多かったため、漢字指導には特に力を入れた。漢字の読みのコツを指導した結果、生活やテストでも実感できるほど読みの力が伸びた。漢字のしくみに対する理解が増し、新しい熟語を見たときにも学んだ知識で分析してみることができるようになった。分からない言葉は、例文をあげてどのように使うかを知ることが大事だと気づき、調べた言葉を書きとめ、ノートに練習するなどの自主学習をするようになった学習者もいる。日本語の習得だけでなく、今後に繋がる学習習慣を身につけたことは大きな成果と言える。

また、どの活動もグループごとにテーブルを寄せて小さな島を作り共に学ぶスタイルを取ったため、他者との関わりの中から協力や合意、参加といったコミュニケーションを学ぶことができた。

(3) 日本語教室設置運営の効果、成果

国籍は違っても同じ経験や目的を持った人たちが集い共に学ぶことで、互いの交流を深め、励まし合い、目標に向かって競い合うこともできた。主婦層に特化したことの効果は共有するものが多いだけに大きかったと言える。

直接的に就労に結びつくことができたケースは少ないが、受講中に短期のアルバイトが決まったり、受講後に自分の店を開いたり、翻訳や学習支援などで今までよりも多くの仕事を引き受けることにした人もいた。また、日本人の配偶者である学習者の中には漢字が読めるようになってきたことを家族に自慢できるようになったという声もあった。努力の積み重ねを学習の場で実感することで自信に繋がり、前向きな気持ちを後押しすることができた。

（４）地域の関係者との連携による効果、成果 等

直接の連携ではないが、日系人就労準備研修事業や他のボランティア団体の日本語教室と並行して通う学習者が半数以上いたため、それらの内容とかぶらないように修正しながら事業を進めた。結果として、学習者としては様々なことを学ぶ機会が得られた。

（５）改善点、今後の課題について

①現状

＜回数と実施期間＞

学習機会を増やし、習慣化してもらうために週２回の授業になるよう調整した。時間と回数は１回あたりの時間を減らして回数を増やすために１．５時間×４０回にした。授業期間は年２回の日本語能力試験が終わった後は学習のモチベーションが下がることや、夏休み期間は家族との時間が優先されるため７月第２週～８月を休みとし、１２月第１週で終わることとした。これらの設定は功を奏し、主婦が家庭との両立を保ちながら継続的に勉強に集中することができた。

＜日本語能力試験対策＞

試験対策は学習者のニーズに応じて充実した内容にすることができ、学習意欲を高めることもできた。クラス数は開講当初は２クラスを予定していたが、学習者のレベル差にかなりの開きがあったため途中から３クラス体制にし、Ｎ４、Ｎ３、Ｎ２の合格をめざした。模擬試験の実施や、経験の少ない聴解問題はレベルごとに別室で実施し、問題形式を分析してポイントの指導にあたった。

＜パソコン講習＞

初心者向けに文字入力の基礎と情報検索の活用方法を紹介した。文字入力の練習は時間はかかったものの特殊音などの確認にもなった。Google 検索の応用では、知りたいものを写真や動画で調べる練習は実用的で好評だった。また、レジャースポットなどのホームページから簡単な文字情報を読み取る練習など、生活でもすぐに役立つ内容を学ぶことができた。

＜対話型活動＞

対話型活動はもうひとつの企画「参加型学習を取り入れた日本語コミュニケーション活動」の教室で実施している手法を用い、３０分ほどの短縮版で実施した。対話のテーマは主婦向けに家事や暮らしの知恵に関するものを選んだため、非常に活発な対話ができ、学習とは違った面でお互いを知ることで交流は深まった。能力試験が近づいてきた頃には試験対策の勉強を多くしたため、こうした活動を適宜入れることで緊張感をほぐすこともできた。

＜新聞等のリライト文章＞

実際の新聞や雑誌の記事から学習者が興味を持ちそうな話題を選んで読む活動をした。話題は介護、家事、学校などから選び、文章は学習者のレベルに合わせてリライトを施した。読んで問題に答えて内容について話しあう活動では、学習者が自分の子育てや仕事の体験を話すなど話が発展した。

②今後の課題

対象者は外国人主婦という枠で共通する部分が多かったが、それでも境遇は人によって大きく異なり日本語レベルの差も大きかった。もう少しクラス数を増やす必要がある。そして、学習だけでなく社会的側面に目を向けた活動を増やすべきである。

③今後の活動予定、展望

ニーズとしては日本語能力試験の対策と漢字学習を望む声が多いが、可能な限り生活や仕事に密着した内容に置き換えた実用的な学習が可能になるようアレンジをした教室を企画する予定。また、主婦層には対話型活動が非常に合っていたので、そちらにも力を入れて行く。

（６）その他参考資料

＜学習者アンケート＞

Ｑ１．よかったことはなんですか。

- ・みんなと一緒に勉強すると、いろいろな質問が出てよかった。
- ・能力試験の勉強
- ・先生は優しいし熱心。分かりやすく教えてくれた。
- ・漢字の勉強がよかった。
- ・看板とか今まで読めなかったものが読めるようになって嬉しい。
- ・日本語が前よりうまくなった。
- ・漢字がたくさん読めるようになった。
- ・友達ができた。
- ・日本語能力試験はまだ合格していないけど、そのための自信や受ける勇気は強くなった。
- ・自分の日本語能力は良くなったと思う。

学習と交流の面の両方が評価された。グループ学習の良さが表れている。

Ｑ２．困ったこと、よくなかったことはなんですか。

- ・私は今まで～を、は、へ、がの使い方を学んでいなかった。
- ・会話、読解、聴解が難しくて困った。
- ・遠い場所から通っていること。

Ｑ３．教室での勉強は自分で考えてよくできましたか。

【漢字】できた←A：1人、B：3人、C：4人、D：1人、E：0人→できなかった

【文法】できた←A：1人、B：2人、C：5人、D：1人、E：0人→できなかった

【聴解】できた←A：1人、B：3人、C：2人、D：1人、E：1人→できなかった

【読解】できた←A：0人、B：3人、C：3人、D：2人、E：1人→できなかった

【模試】できた←A：0人、B：1人、C：5人、D：1人、E：1人→できなかった

【対話】できた←A：2人、B：2人、C：3人、D：1人、E：1人→できなかった

【新聞】できた←A：0人、B：1人、C：3人、D：1人、E：1人→できなかった

※参加していない項目は無回答もあった。

読解の勉強は苦手で頑張れなかったよう。新聞記事の読解は難しいと感じた人は多かったようだが、対話は他の学習と違い比較的多くの人の満足度を得られた。

Q 4. これから勉強したいことはなんですか。

能力試験：5人、漢字：3人、文法：1人、会話：3人、読解：1人、作文：1名

スピーチ：1名 ※複数回答もあり

レベルを問わず日本語能力試験対策や漢字の学習を望む声が多い。会話を希望しているのは初級者に多い。学習支援に携わる人からは、作文やスピーチなど、積極的に自分の考えを丁寧な言葉で伝えられるようになりたいという回答もあった。

Q 5. 主婦（女性）だけの教室がいいですか。

主婦だけがいい：1人、どちらでもいい：7人、いろいろな人がいた方がいい：1人

特に主婦に特定しなくてもよいという結果が出た。しかし、対象者を絞ったことによって対話型活動のテーマも相応しいものを選ぶことができ、学習者の様子を見てきたスタッフ達の印象としては効果があったと言う声が多い。事業後半が能力試験対策に偏ったことが影響しているかもしれない。